

授業科目(ナンバリング)		教育実習 A (QB330)		担当教員 担当形態		木村、乙須、田中(誠)、中山、 柳、浦郷、川上知、神野、長津 複数			
教員免許状取得 のための選択の別	中学校、または中・高等学校:必修	単位数	4単位	開講 年次	3年	展開 方法	実習	開設 時期	集中
科 目	教育実践に関する科目								
各科目に含める ことが必要な事項									
授 業 の ね ら い									アクティブ ラーニング の 類 型
教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目標とする。									④
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・ 方法		評価 比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領及び生徒の実態を踏まえた適切な学習指導案を作成し授業を実践することができる。</li> <li>・学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。</li> <li>・学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習成績 評価票</li> <li>・教育実習日誌</li> </ul>		20%	10%
情報収集、 分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。</li> <li>・指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。</li> <li>・教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習成績 評価票</li> <li>・教育実習日誌</li> </ul>		20%	10%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わることができる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習成績 評価票</li> <li>・教育実習日誌</li> </ul>		10%	10%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習成績 評価票</li> </ul>		10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中や授業外での観察や生徒とのふれあいの中で、様々な多様性を持つ生徒への理解を深めることができる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習日誌</li> </ul>		10%	
出 席						受験要件			
合 計						100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明									
「教育実習成績評価票 [実習校による評価]」を60%、「教育実習日誌」を40%の割合で評価する。									
授 業 の 概 要									
教育実習の授業は、実習校における教育実習を中心に行われるが、年度はじめの教職オリエンテーションなどの説明会や「事前・事後指導」の授業と緊密な連携を取りながら、実施される。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。									
教 科 書 ・ 参 考 書									
教科書：「学習指導要領」、文部科学省。 参考書：別府 昭郎 (監修)、寺崎 昌男、黒澤 英典 (2009) 『教育実習 64 の質問』 学文社。 指定図書：別府 昭郎 (監修)、寺崎 昌男、黒澤 英典 (2009) 『教育実習 64 の質問』 学文社。									
授業外における学修及び学生に期待すること									
教育実習生は、実習生と教師の二つの顔を持っている。すなわち、実習校の指導教諭に対しては実習生として謙虚で礼儀正しく、何事も積極的に研究意欲の旺盛な態度を示し、また生徒に対しては、教師として信頼され、尊敬される責任ある態度で接することが肝要である。誠実に教育実習に取り組み、「教師」としての喜びを実感できることを期待している。									